



進路イベントから将来について考える

10月5日（水）に、東京電機大学と東洋大学の入試課の方をお招きして（東洋大学はオンライン）、大学の説明と大学で研究できる内容についてご紹介いただきました。このイベントは、大学関係者から直接お話を聞けるというもので、昨年度に初めて実施しました（前年度は中央大学）。よりリアルな内容を知ることができるということを主眼としたもので、学進部としては、生徒たちにここから自分の興味、関心をより深めてくれたらと考えています。



東洋大学の説明の様子



東京電機大学の説明の様子

進路関係のイベントやこの進路通信を通して皆さんには、ただ漠然と大学や専門学校に進学したいと考えるのではなく、より具体的に自分の将来について考えてほしいと願っています。1学期に1、2年生には「夢ナビプログラム」に登録していただきました。3000以上の講義動画を見て、それまで関心のあった事柄に対してさらに関心を高めたり、まったく知らないことについて知ってみたりすることができるというものです。みなさん活用しているでしょうか。

例えば、「経済学を学びたい」と思っている人はいると思いますが、実際には経済学というものは内容が多岐にわたっています。何も知らないままに3年生になって、仮に総合型選抜や学校推薦型選抜で面接試験を受けた場合、経済学に関する質問がされて何も答えられないということが発生する可能性もあります。他の分野に関しても同様です。1、2年生のうちに自分の関心があるものはさらに深めておくことで、大事な進路決定の時に安易な決定をしてしまう危険性を回避したいものです。

自分の将来に関わることで、普段の授業のための勉強も重要ですが、それと同じくらい自分の将来に向けてさまざまな機会を利用してみてください。

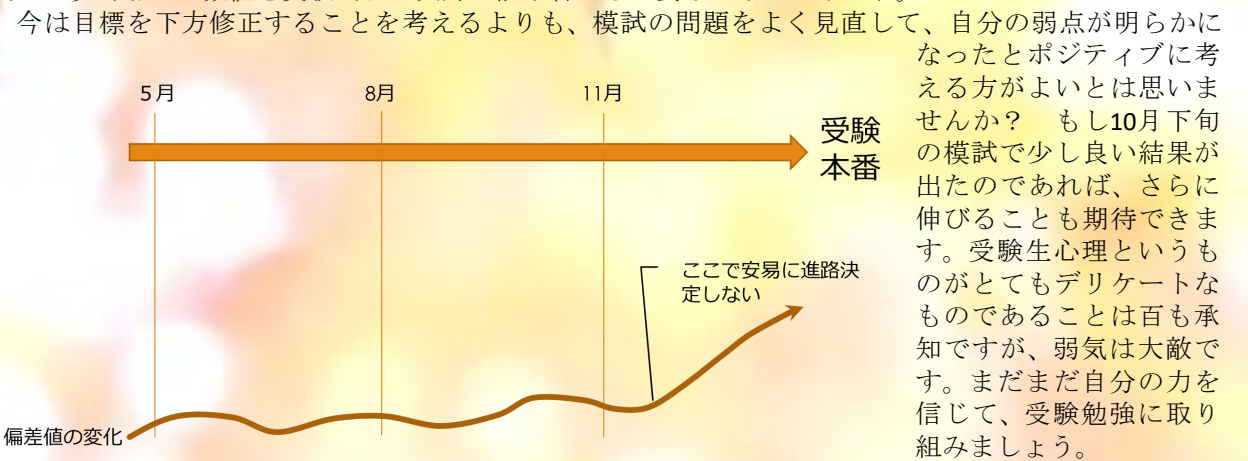


これから伸びる現役生

3年生で一般入試での大学進学を目指している諸君もたくさんいると思います。そのような諸君は、今まで数多くの模擬試験を受けてきたことと思います。しかし「全国模試」と呼ばれるものは、めぼしいものはほぼ先月末で終わってしまいました。今後の模試は、各大学オープン模試（大学別に志望者を集めて行う模試で、東大、京大、早慶といった名だたる大学の一般入試の問題を模したものと、共通テストプレといったものだけになります。つまり、共通テストプレ以外では、全国における自分の位置というものを計る機会を実質的にないということになります。

そうすると、10月下旬に行われた模試の結果が返却されるのが11月中旬とすると、その結果を見て志望校を変更することを考える場合もあるかもしれません。仮に、10月下旬の結果が芳しくなかったとして、その偏差値を見て志望校を下げた方がいいと思う人もいるかもしれません。

しかし、実際には10月下旬の模試を受けた後に、共通テスト本番なら約2か月半、私大の個別試験が始まるまでには約3か月、国公立大学の試験であれば約4カ月の時間があるわけです。その間、当然猛勉強するわけですし、夏にしっかりと勉強していたのであれば、その時に蓄積した力がまだ芽を出すことも考えられます。一般的に、「現役生は受験当日まで伸びる」と言われることがあります。つまり、現役生は現時点での数値を受験当日の実力に読み替える必要などないわけです。



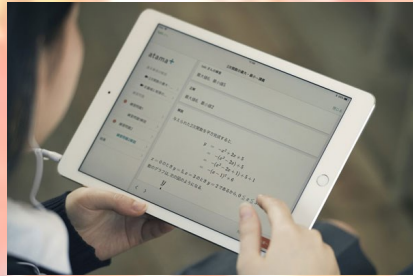
また、これから推薦で受験に挑む人もたくさんいると思います。推薦入試は大学によって面接やディスカッション、場合によっては学力試験が行われたりと実にさまざまです。直前まで手を緩めることがないようにしましょう。

一方で、総合型選抜を中心に合格が出ている人もいます。進路が決まって嬉しくなることは理解できますが、何もしないで浮かれ気分であることは厳禁です。これから大学から膨大な課題が出ることが予想されますが、与えられた課題に取り組むことはもちろんであるとして、ここから一般入試組がぐっと力をつけて大学に向かっていくのに対して総合型選抜組が何もしないでいると、その差は広がるばかりであることを自覚しましょう。逆に言えば、自分のペースでこれまでなかなか取り組み切れなかったものに取り組むというアドバンテージもあるわけなので、大学に入ってからスタートでつまづくことがないように、今の自分にできること（やらなければいけないこと）を考えましょう。



模擬試験で得点するためには

1, 2年生で行われている「駿台atama+」。すでに3回終了しております。タブレット端末で受験でき、受験が終わるとすぐに得点が表示されるというのが従来の模擬試験とは異なる点です（通常の模試は、試験終了後およそ1カ月程度しないと得点がわからない）。解説が表示されると同時に、問題によっては解説動画もアップされているため、より細かな見直しができるというメリットもあります。個票については、試験終了後およそ2週間程度で開示されるため、自身のIDとアクセスキーで見ることができ、担任の先生から渡されてもいると思います。ただ何点取ったかということだけでなく、どこができてどこができなかったのかということを追及していかないと、模試は「ただ受けただけ」のものになってしまい、あまり効果がありません。3年生になっても言えることですが、模擬試験を受けたら、その後が大事になります。例えば英語なら、わからない単語は覚えていく、知らない文法事項については調べてみる、国語においてももう一度文章を読み直してみる、数学も解き直してみる、解法を頭に叩き込む、など、やれることはたくさんあります。こうしたことを続けていくだけで、やがて大きな力になっていくものです。



駿台atama+はあと3回実施されます。模擬試験に限ったことではありませんが、「受けて意味のある試験」にしていくためには、「受けた後」が大事です。



赤本について

進路指導室には「赤本」のコーナーがあります。1, 2年生のために説明すると、赤本とは各大学の過去問を集めた問題集です。今まで数多くの大学の赤本を用意してきましたが、今年度も新しく来年の受験用に赤本を入れました。昨年度版は開架式ですので、自由に手に取って見ることができます（画像左）。最新版は閉架式となっていますので、進路指導室にいる教員に声をかけてください。



なお、貸出も行っておりますが、赤本を見たい人は一人とは限りません。貸出期間は最長で1週間です。また、進路指導室をはじめとする校内でコピーをとることはできません。今年度版については、進路指導室前に入荷状況を貼りだしてありますので、参考にしてください（画像右）。

情報Ⅰの試作問題

大学入試センターから、新学習指導要領の受験生（現1年生以降）を対象とした、大学入学共通テストの試作問題が発表されました。今回は、「情報Ⅰ」が新しい教科として注目されています。試作問題では、インターネット利用時のリテラシーや、データの通信時のエラー検出方法、論理回路、プログラミングの問題としては、基本的に穴埋めではありますが、アルゴリズムを問われる問題となっています。そのため受験者には、変数や繰返処理、条件分岐、算術演算等の理解が求められるものとなっています。なかなかハードルが高いものです。

普段、パソコンに触れる機会はたくさんありますが、実際にはどのくらい利用しているかは人によって実にさまざまです。キーボードで楽に文字を入力できる人もいれば、キーボードにほとんど触れたことがないという人もいます。最低でも今のうちからキーボードでの入力ができるようにしておきたいですし、ただスマホでウェブサイトを見るだけではなく、情報に関する予備知識をいろいろと入れておきたいところです。

試作問題は、地歴・公民でも大きな変更が加えられているなど、情報Ⅰ以外でも興味深い点がいろいろあります。詳しくは[大学入試センターのHP](#)で見ることができます（電子版は画像をタップすれば大学入試センターのHPへジャンプできます）。



トピックス

- 予防接種の重要性：新型コロナの話題ばかりが取りざたされていますが、これからインフルエンザの季節でもあります。3年生で一般入試で受験に挑む人は、できるだけ年内に予防接種を済ませておきましょう。
- コロナウィルスの感染拡大がまた世間をにぎわせ始めています。今度は第8波となるのでしょうか、それに伴い、総合型選抜、学校推薦型選抜、一般入試といったものについても情報を常に収集しておく必要があります。詳しくは各大学のHPを参照してください。常に情報は更新されていきますので、定期的にチェックしておくことが重要です。万が一コロナウィルスに罹患してしまったという場合にどう対処すべきかについても、情報が載っていることがありますので、これから受験に挑む人は、特に注意が必要です。
- 12月中旬には共通テストの受験票が届きます。一般入試で受験に挑む人は、それに貼る写真の用意や、受験する大学のリストアップなどをそろそろ始めましょう。ちなみに受験票に貼る写真（ウェブ出願の場合はデータで提出のこともあります）は、大学入学後の学生証になることもあることを覚えておきましょう（大学によって異なります）。



11月8日は、皆既月食の日でした。夜空を見上げて、オレンジ色になった月を見た人も多いのではないのでしょうか。同時に「惑星食」も起きていて、皆既月食との同時発生は実に442年ぶり、つまり安土桃山時代以来ということですから、すごいことですね。

こうした「天文ショー」というものが時々世間をにぎわすことがあります。ネットの情報に注意していると、天体に関するニュースというものは案外よく目にするものです。史上最も遠い恒星を発見したというニュースは3月31日にありました（ちなみに地球から280億光年離れているそうです）。世間を騒がせたものとしては、「はやぶさ2」の地球への帰還や、少し前だと皆既日食などもありました。

遠い宇宙のことに思いをはせるといってもなんとロマンティックなことですが、私たちは日々の喧騒の中でなかなかこうしたロマンティックな時間というものをお忘れがちかもしれません。今すぐ私たちの生活にどうこういうものではありませんが、そういうロマンというものも大事にしたいものです。



*画像は私が撮ったものです。